

序 章

1	第5次結城市総合計画後期基本計画の策定にあたって	2
2	第5次結城市総合計画基本構想の概要	4
3	結城市のすがた	8
4	結城市の宝	25
5	社会潮流	28
6	まちづくりの計画課題	31

1 第5次結城市総合計画後期基本計画の策定にあたって

1-1 計画策定の趣旨

結城市では、平成32年度を目標年次とする「第5次結城市総合計画」を平成23年3月に策定し、将来都市像を「みんなでつくる活気と風情のある快適なまち・結城」として、その実現のため各種施策を実施してきました。

近年では、少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、環境問題の深刻化、高度情報化、国際化など、地方自治体を取り巻く環境は急激に変化しています。

また、地方分権*の進展や社会経済情勢の変化とともに、東日本大震災による安全・安心への意識の高まりなど、市民の価値観やニーズも多様化しています。

こうした状況を踏まえ、市民・行政協働*のもと、総合的でバランスのとれた市政を運営するため、平成28年度から32年度の5年間を計画期間とする「第5次結城市総合計画後期基本計画」を策定し、まちを特色づける重点プロジェクトや、行政評価を活用した進行管理を行い、結城市のさらなる発展と誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指します。

結城市マスコットキャラクター まゆげった



プロフィール

まゆげったは、平成24年3月15日に結城市マスコットキャラクターに就任しました。

ユネスコ無形文化遺産*にも登録されている結城紬の原料である繭でできた体と、特産品の桐下駄を履いています。

名前の由来は、マユとゲタで「まゆげった」です。名前のおり、長い眉毛が特徴的で、結城の頭文字であるYとも、下駄の鼻緒とも言われています。

語尾に「～った」と付けるのが口癖で、明るく人なつっこい性格です。お祭りやイベントが大好きで、全国のイベントに参加しています。

1 - 2 計画の構成と期間

基本構想

- 基本構想は、結城市の将来都市像を明らかにし、その実現のための施策の大綱を定めるもので、市政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるものです。
- 基本構想の期間は、平成 23 年度（2011 年）から 32 年度（2020 年）の 10 年間としています。

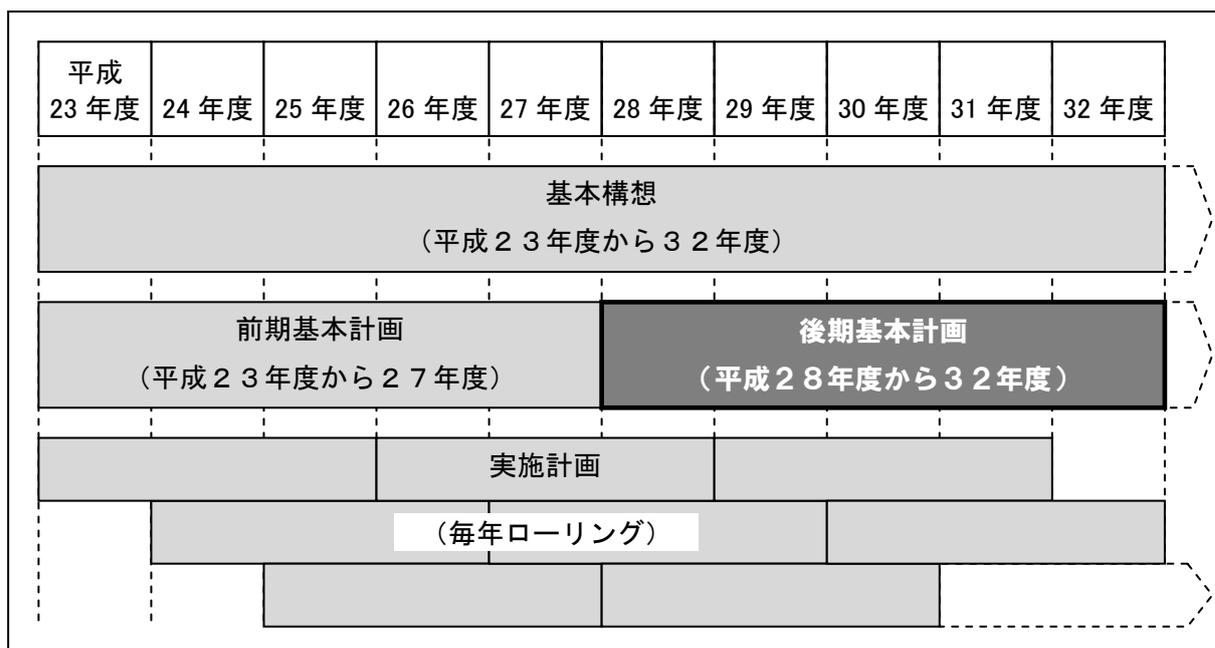
基本計画

- 基本計画は、基本構想を実現するための施策体系を示すとともに、各施策の方向性、達成目標、主要事業などを明らかにするものです。
- 基本計画の期間は、前期基本計画を平成 23 年度（2011 年）から 27 年度（2015 年）の 5 年間、後期基本計画を平成 28 年度（2016 年）から 32 年度（2020 年）の 5 年間としています。

実施計画

- 基本計画に位置づけられた施策・事業を推進するための具体的な計画で、毎年度の事務執行の指針となるものです。
- 実施計画の期間は 3 年間とし、ローリング方式により毎年必要な調整を行います。

■ 計画の構成と期間

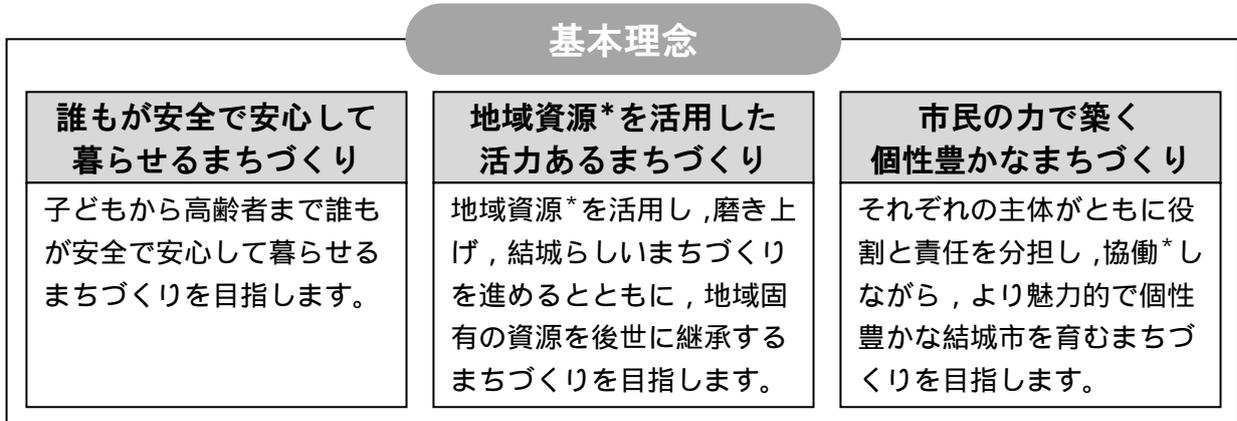


2 第5次結城市総合計画基本構想の概要

2-1 基本理念・将来都市像・計画人口

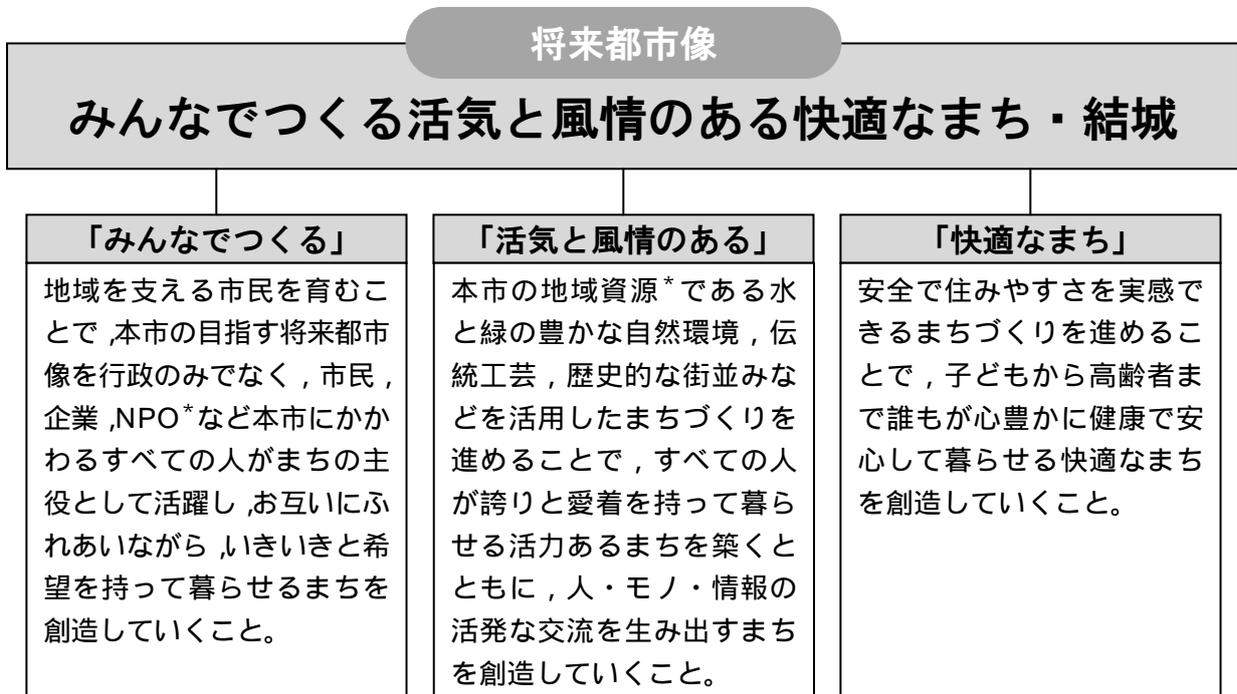
基本理念

基本構想では、次の3つを基本理念としています。



将来都市像

これまでのまちづくりを継承しながら、本市の豊富な地域資源*を活用したまちづくりを市民とともに進め、誰もが住みやすい、活力のあるまちを創造することを目指し、次の将来都市像を設定しています。



計画人口

本基本構想では、コーホート要因法*により、平成32年の人口を49,255人と推計しています。これを、総合計画の各施策を着実に実行することで、人口減少を食い止め、平成32年の将来人口*を、概ね53,000人と設定しています。

2-2 基本目標と施策の大綱

基本構想では、5つの基本目標に基づき、以下の基本施策が設定されています。

基本施策	
将来都市像実現のための5つの柱（基本目標）	1. とともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実（保健・福祉）
	1-1 健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）
	1-2 地域で支えあう社会福祉の充実（地域福祉）
	1-3 安心して子育てできる児童福祉の充実（児童福祉）
	1-4 ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実（高齢者福祉）
	1-5 自分らしく暮らせる障害者福祉の充実（障害者（児）福祉）
	1-6 安定した生活を送れる社会福祉の充実（低所得者福祉・母子・父子福祉）
	2. 安全で住みやすさを実感できるまちづくり（都市・環境）
	2-1 計画的で魅力あるまちづくり（都市計画）
	2-2 ゆとりある住みよいまちづくり（住環境）
	2-3 便利で快適に移動できるまちづくり（道路・公共交通）
	2-4 安全に暮らせる安心なまちづくり（防災・防犯・安全）
	2-5 安全な水を安定供給できるまちづくり（上水道）
	2-6 地球環境にやさしいまちづくり（環境保全・排水処理）
	3. 歴史と自然を育む活力あるまちづくり（産業）
	3-1 元気あふれる農業の振興（農業）
	3-2 ものづくりと創造の力を育む工業の振興（工業）
	3-3 活気にあふれた商業の振興（商業）
	3-4 地域資源*を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興（観光）
	3-5 つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興（伝統産業）
4. 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり（教育・文化）	
4-1 生きる力を育む教育環境づくり（学校教育）	
4-2 生涯を通じてともに学べる環境づくり（生涯学習*・地域教育・青少年の健全育成）	
4-3 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進（スポーツ）	
4-4 個性豊かな芸術文化の創造（芸術・文化）	
4-5 人権が尊重される社会づくり（男女共同参画・人権）	
4-6 国や地域を越えた交流の推進（国際交流・地域間交流）	
5. 協働で進める持続可能なまちの実現（自治・行財政運営）	
5-1 市民・企業・行政がともに支えあう体制づくり （市民参加・広聴広報・コミュニティ・ボランティア）	
5-2 自立した行政経営の確立（行財政運営・広域連携）	
5-3 情報化社会に対応した行政体制づくり（市民生活・行政・情報公開・個人情報保護）	

2-3 都市空間整備構想

1) 都市空間整備構想の基本方針

本市の都市空間整備構想は、豊かな自然や田園環境との共生と美しい快適な環境の創造を目指すこととして、以下の基本方針をもって推進します。

安全・安心に暮らせるまちづくり

子どもから高齢者まで誰もが安全で安心して暮らせるよう、防災、防犯、ユニバーサルデザイン*に配慮したまちづくりを推進します。

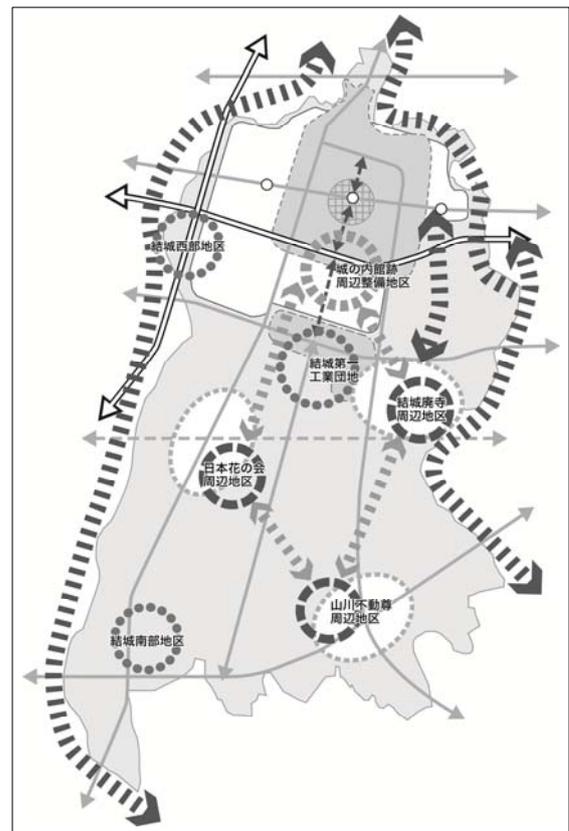
豊かな地域資源*を活用したまちづくり

歴史的な街並みや自然豊かな田園風景を活用し、まちのにぎわいと魅力の向上を図り、活気あふれるまちの創出や交流人口の拡大を進めます。

快適に暮らせるコンパクトなまちづくり

人口減少や高齢社会に対応し、暮らしやすさの向上と持続可能なまちづくりを推進するため、都市機能の高度化や効率的な土地利用により快適に暮らせるコンパクトなまちづくりを目指します。

■ 都市空間整備構想図



2) 基本的都市機能の配置

都市の健全な成長と良好な形成に向けて、各地域特性に応じた土地利用を推進し、適切な都市機能の配置と集積に努めます。

市街地ゾーン

商業地ゾーン	結城駅を中心とした商業地では、歴史的資源等を活用した商業の活性化、都市的利便性の向上、さらに市民活動の拠点としての活用を図り、人々が集い、にぎわう空間づくりを進めます。
--------	--

住宅地ゾーン	商業地ゾーンの周辺市街地は、地区特性を踏まえた良好な住環境の形成を図ります。北部地区は、歴史的風情のある住宅地として、また、南部地区は近代的・計画的な住宅地としての形成を図ります。
--------	--

産業ゾーン	現行の工業系用途地域を産業ゾーンとして位置づけ、結城第一工業団地等の既存の工業系施設の集積地区における企業集積の継続と、新たな産業基盤の整備を図るため、結城第一工業団地上山川北部地区の整備を進めます。
-------	--

田園環境ゾーン

重点整備ゾーン	<p>地域の活性化を先導する地区として以下の地区を位置づけ、活性化のための拠点整備に合わせ、周辺の環境や景観の整備を進めます。</p> <p><重点整備地区> 日本花の会周辺地区 山川不動尊周辺地区 結城廃寺周辺地区</p>
市街化想定ゾーン	<p>既存土地区画整理の宅地化の進行と社会経済情勢を勘案しながら、長期的に市街化ゾーンへの編入に図ることを想定する地区として、結城西部地区、小田林駅周辺地区、南部市街地以南の地区、東結城駅周辺地区を位置づけます。</p>

3) 拠点とネットワークの形成

都市の魅力と活力を戦略的に創造し、特色ある一体的な都市空間構造を形成するために、地域特性を踏まえた各種都市拠点の形成と骨格的交通網等の交流ネットワーク基盤の整備を、景観等に配慮しながら進めます。

拠点の形成

広域交流拠点	<p>国道 50 号線の広域的な交通を受けとめ都市の発展につなげるため、シビックセンターゾーン*や広域商業サービス集積地、城の内館跡周辺整備地区、鹿窪運動公園等の拠点性の強化を図ります。</p>
産業拠点	<p>産業ゾーンを中心に既存工業団地周辺における工業系の拠点性の強化を図ります。</p> <p>また、社会情勢の動向を踏まえ、結城西部地区における流通業務系の拠点整備を進めます。</p> <p>さらに、長期的には結城南部地区において、首都圏の広域的な動向を踏まえながら、その立地条件をいかし、地域に根ざした新たな産業振興のための拠点形成を図ります。</p>
地域活性化拠点	<p>地域のコミュニティや地域特性を維持・発展させる地域資源*活用型の活性化拠点を、日本花の会、山川不動尊、結城廃寺を核として形成します。</p>

ネットワークの形成

交通網の形成	<p>都市計画道路の見直しを図るとともに都市間、都市内の地域や主要な拠点・施設を連絡する東西・南北の骨格的な交通網を整備します。</p>
水と花と緑の軸等の形成	<p>豊かな自然をいかし、うるおいのある水と花と緑の軸を形成するとともに、南北都市軸をはじめ幹線道路やサイクリングロード等を活用して各種拠点のネットワーク等を形成します。</p>

3 - 2 沿 革

● 縄文・弥生・古墳時代

本市は鬼怒川、田川沿岸の結城野に位置し、上古（奈良・天平）から総（ふさ＝麻）や穀（ゆう＝木綿）の産地として総（ふさ）の国「ゆうき」と呼ばれ、古くから農耕文化が栄えてきました。

これは、水運の便とあいまって地理的にも経済的にも開けたためであり、市内に現存する数多くの古墳や出土品、遺跡等によってうかがい知ることができます。

● 奈良・平安・鎌倉・室町・戦国時代

大化の改新以後、全国的に律令制度が整備され、総の国は、上・下に分かれ、下総の国の一部として結城郡が成立したと伝えられています。その郡庁舎は、現在の鹿窪運動公園周辺にあったと想定されており、当時からこの地域の中心として栄えました。

鎌倉時代には結城朝光が城の内に館を構え、その後現在の城跡歴史公園の地に築城して以来、結城家歴代の城下町で、常陸紬（結城紬）の特産地として発展してきました。

● 安土桃山・江戸時代

江戸時代には結城水野家の城下町となり、結城紬をはじめ各種農産物の集散地として商圏が拡大しました。当地方で織られる「結城紬」は「地機（じばた）」という我が国最古の織機を使って生産され、国の重要無形文化財*に指定されています。

また、今でも市内には神社・寺院等が点在し、市街地の道路は曲折しており、街並みには土蔵等もみられ城下町のなごりを残しています。

● 明治・大正時代

明治時代の廃藩置県により茨城県の町村となり、日清戦争を契機として結城町の産業経済は大きく発展しました。

また、明治初期から大正期にかけて、紬問屋や商店、味噌・醤油の醸造蔵など、数多くの蔵造りの建物が建てられ、明治22年には国鉄水戸線が開通し、結城駅が開業しました。

● 昭和時代

昭和29年に結城紬をはじめ農産物の生産を主とした生活圏を同じくする絹川村・上山川村・江川村・山川村の南部4村が結城町と合併し、市制を施行しました。

市制施行後は高度経済成長の波に乗り、人口が増加し、宅地開発や上下水道の整備、保育所、小中学校の建設など、都市としての機能が充実され、現在の市の基礎がつけられました。

● 平成時代

時代が平成に変わってからは、更に施設の充実化が図られ、平成3年には、市民文化センター「アクロス」が開館しました。平成16年には市制50周年を迎え、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館しました。

また、国道50号結城バイパスの全線四車線化により、沿線への商業施設の充実が図られ、区画整理事業による住宅地の整備や結城第一工業団地矢畑地区の整備など、北関東の中核都市*として着実に発展を続けることができました。

近年では、少子高齢・人口減少社会の到来により、介護や子育て支援施策の充実を図ると共に、定住人口の増加を図るための市PR活動も積極的に行ってきました。

平成22年にはユネスコ無形文化遺産*に結城紬が登録され、また平成24年に市のマスコットキャラクターとして「まゆげった」が誕生したことは、本市のさらなる知名度とイメージの向上につながっています。

現在では、平成32年度を目標年次とした第5次結城市総合計画に基づき、さらなる結城市の発展と誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めています。

3-3 人口・土地利用・産業等

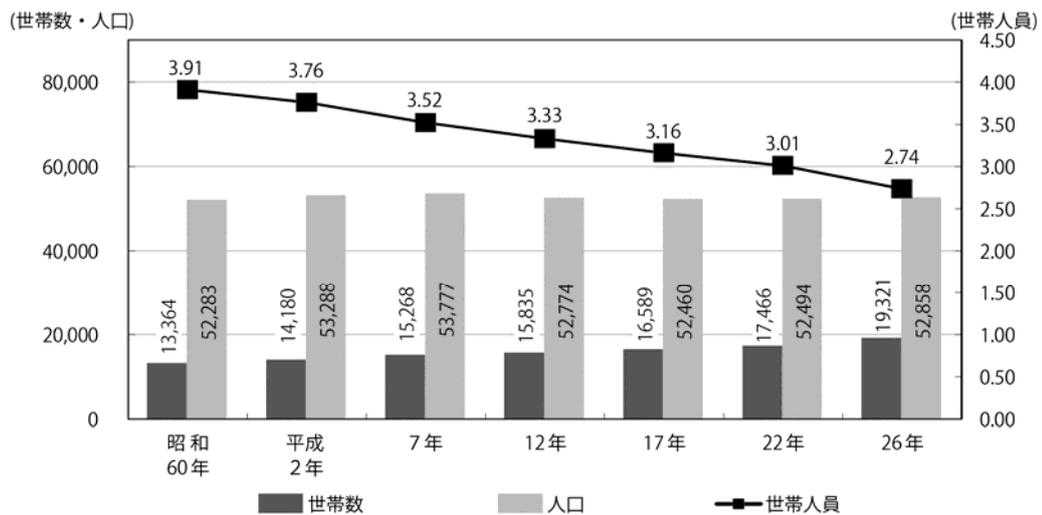
1) 人口・世帯数

本市の人口は、平成7年をピークに減少傾向にありましたが、近年では、若干の増加傾向にあり、世帯数は増加傾向、1世帯あたり人員は減少傾向、平成26年10月1日現在では、人口52,858人、世帯数19,321世帯、1世帯あたり人員2.74人となっています。

また、年齢別人口構成は、15歳未満の年少人口と15歳～64歳の生産年齢人口の割合が経年的に減少し、一方、65歳以上の老年人口の割合が増加しており、平成22年における年少人口の割合は13.2%、生産年齢人口は63.7%、老年人口は22.9%となっています。

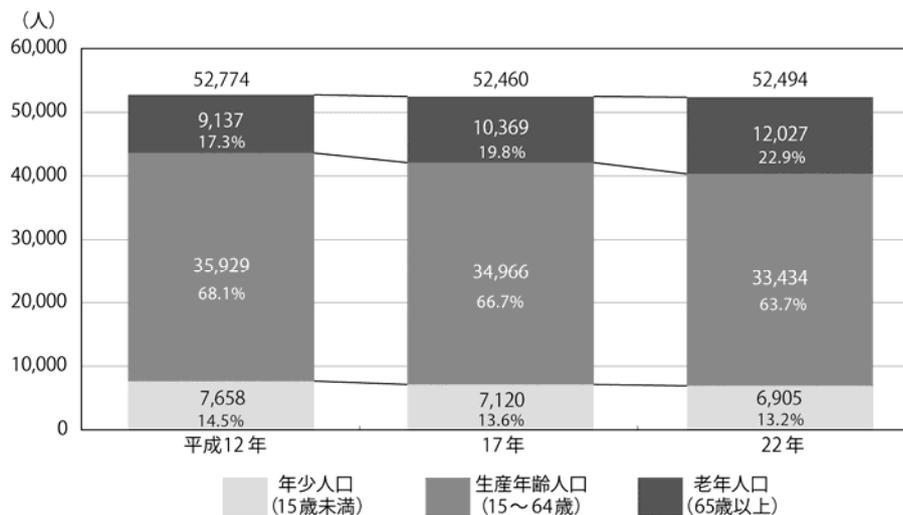
今後、少子高齢化等による人口減少が見込まれることから、「結城市まち・ひと・しごと創生総合戦略*」において、本市の人口の現状及び将来推計を分析しながら、目指すべき将来の方向・人口目標として、「人口ビジョン」を策定しています。

■ 結城市の人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：平成26年は「茨城県の人口」常住人口調査、他国勢調査

■ 結城市の年齢別人口構成の推移



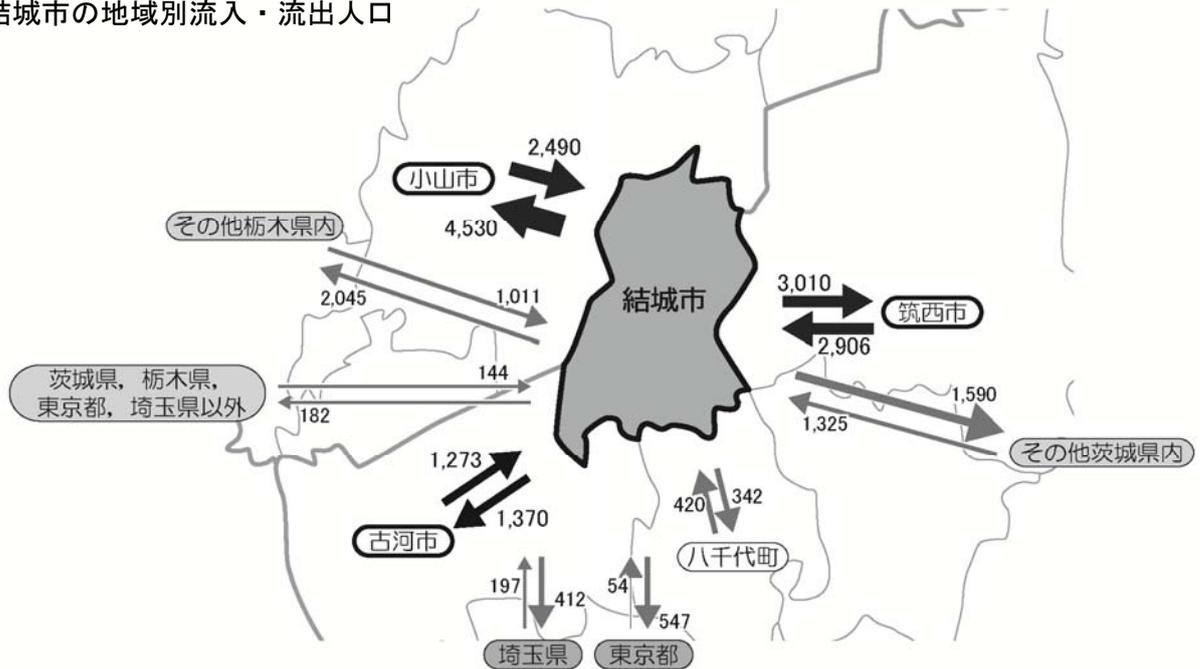
資料：国勢調査

2) 流動人口

平成22年における流入人口は9,820人、流出人口は14,028人で、流出人口が流入人口を大きく上回っています。

地域別に見ると、流入人口・流出人口ともに、小山市、筑西市、古河市が特に多くなっており、流入人口は筑西市が2,906人、流出人口は小山市が4,530人で最も多くなっています。

■ 結城市の地域別流入・流出人口



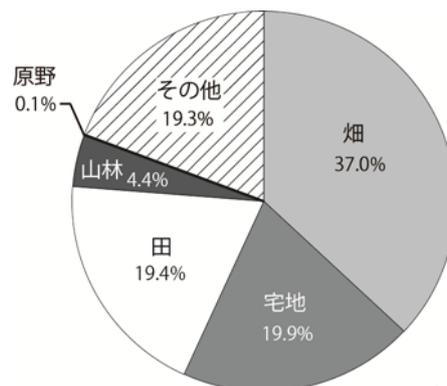
資料：平成22年国勢調査

3) 土地利用

地目別面積の推移を見ると、宅地が増加しています。一方、畑、山林は減少し、田は概ね横ばいとなっています。

平成26年における地目別面積の構成を見ると、畑が37.0%で4割近くを占め、次いで宅地が19.9%、田が19.4%でそれぞれ約2割を占めています。

■ 地目別面積



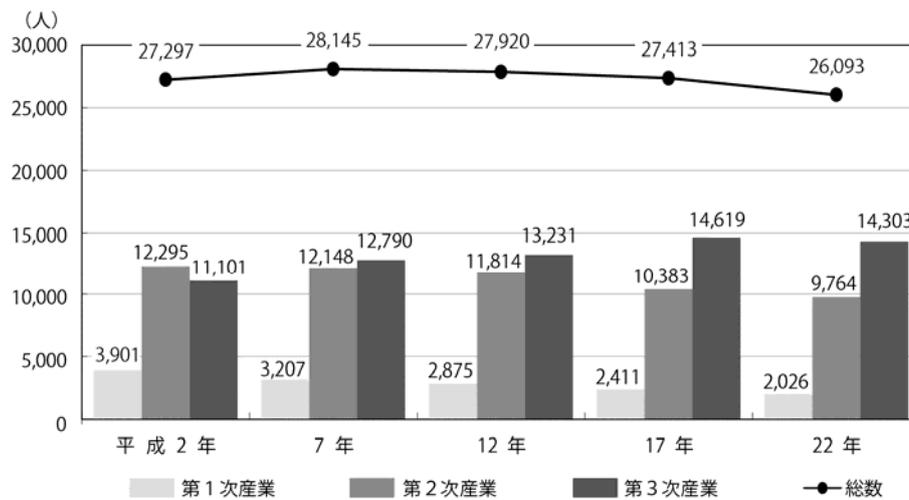
資料：税務課(固定資産概要調書)

4) 就業人口

就業人口構成の推移を見ると、第1次・第2次産業*は減少傾向にあり、第3次産業は増加傾向にあります。

平成22年では、第3次産業が54.8%で半数以上を占めています。一方で、第1次産業は7.8%で1割を切っています。

■ 就業人口構成の推移



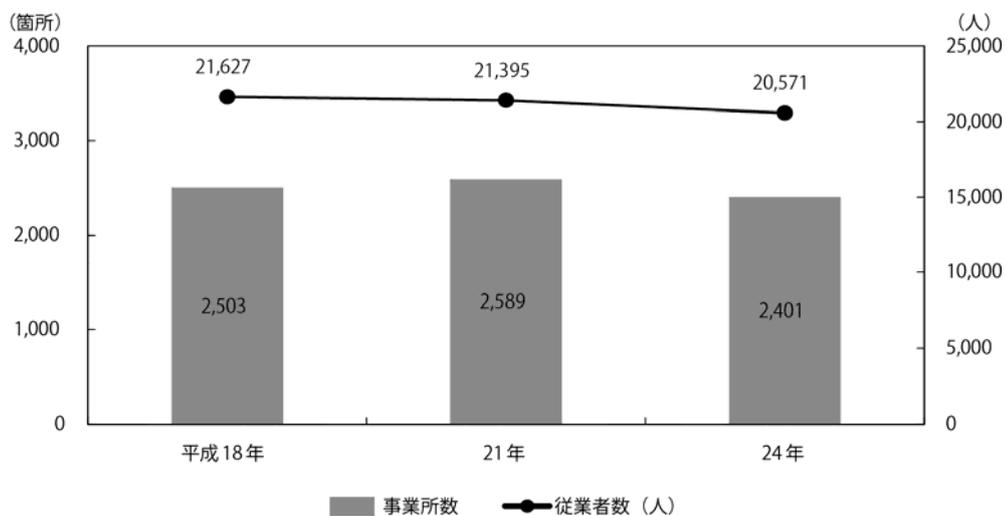
資料:国勢調査, 経済センサス

5) 事業所数・従業者数

事業所数・従業者数の推移を見ると、事業所数は、平成18年から21年にかけて増加傾向にあったものの、その後、減少傾向に転じており、従業者数は、減少傾向にあります。

平成24年では、事業所数が2,401か所、従業者数が20,571人となっています。

■ 事業所数・従業者数の推移



資料:事業所企業統計調査, 経済センサス

3 - 4 市民意識の概要

結城市民意向調査結果

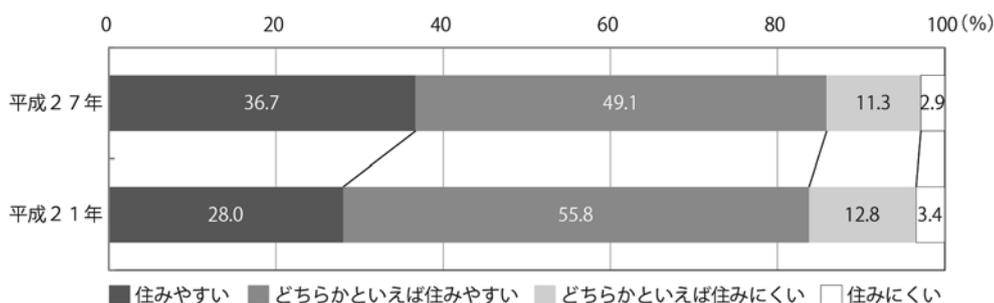
調査概要

調査期間：平成27年2月12日～平成27年2月26日
 調査対象：満18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）
 調査方法：郵送による配布・回収
 回収結果：配布数3,000票 / 回収数1,242票（回収率41.4%）

1) 住みやすさ

結城市を「住みやすいまち」と考えている人が大半を占めています。
 また、平成21年からは、「1. 住みやすい」が10%近く高くなっており、全体的に「住みやすい」という傾向がやや強くなっています。

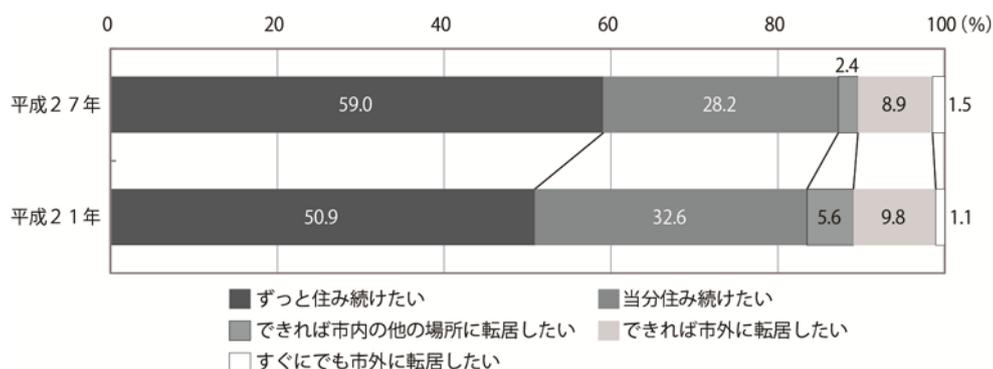
※「住みやすい」＝「1. 住みやすい」＋「2. どちらかといえば住みやすい」



2) 定住意向

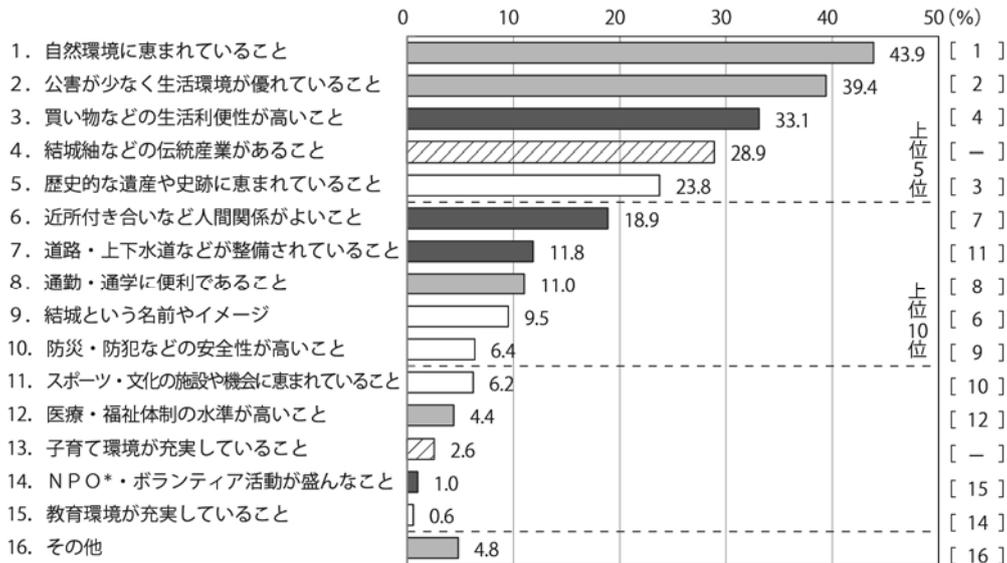
引き続き「結城市に住み続けたい」と考えている人が大半を占めています。
 平成21年からは、「1. ずっと住み続けたい」が10%近く高くなっており、全体的に居住傾向がやや強くなっています。

※「住み続けたい」＝「1. ずっと住み続けたい」＋「2. 当分住み続けたい」
 ＋「3. できれば市内の他の場所に転居したい」



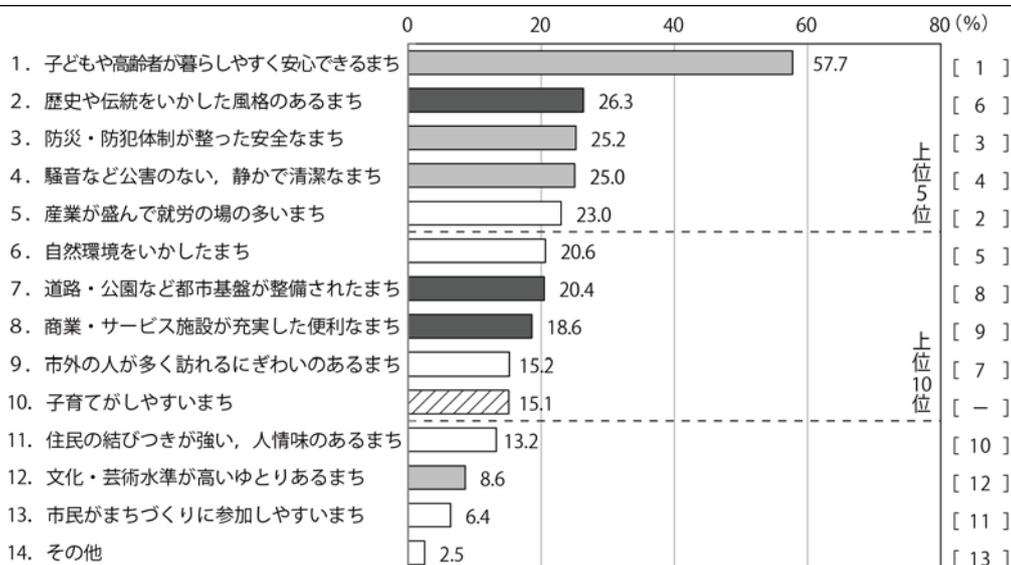
3) 結城市の長所

結城市の長所を「自然環境」と捉える人が最も多くなっています。また、「生活環境」、「買い物などの生活利便性」の日常の生活環境や、「結城紬などの伝統産業」、「歴史的な遺産や史跡」など、歴史・文化・伝統に一定の評価をしている人も多くなっています。一方で、子育て・教育環境への評価は非常に低くなっています。



4) 結城市の将来像

「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」が特に多くなっていますが、結城市の長所として「医療・福祉体制の水準」や「子育て環境」を挙げる人は少なかったことから、今後は、子育て支援・高齢者福祉に関する施策を充実させることが課題になると考えられます。また、平成21年から「歴史や伝統をいかした風格のあるまち」が順位を上げており、結城紬等の伝統産業や歴史的な遺産や史跡を活用したまちづくりへの期待が高まっていると考えられます。



※[]内の数字は、「第5次結城市総合計画前期基本計画」における「市民3,000人アンケート調査結果の順位

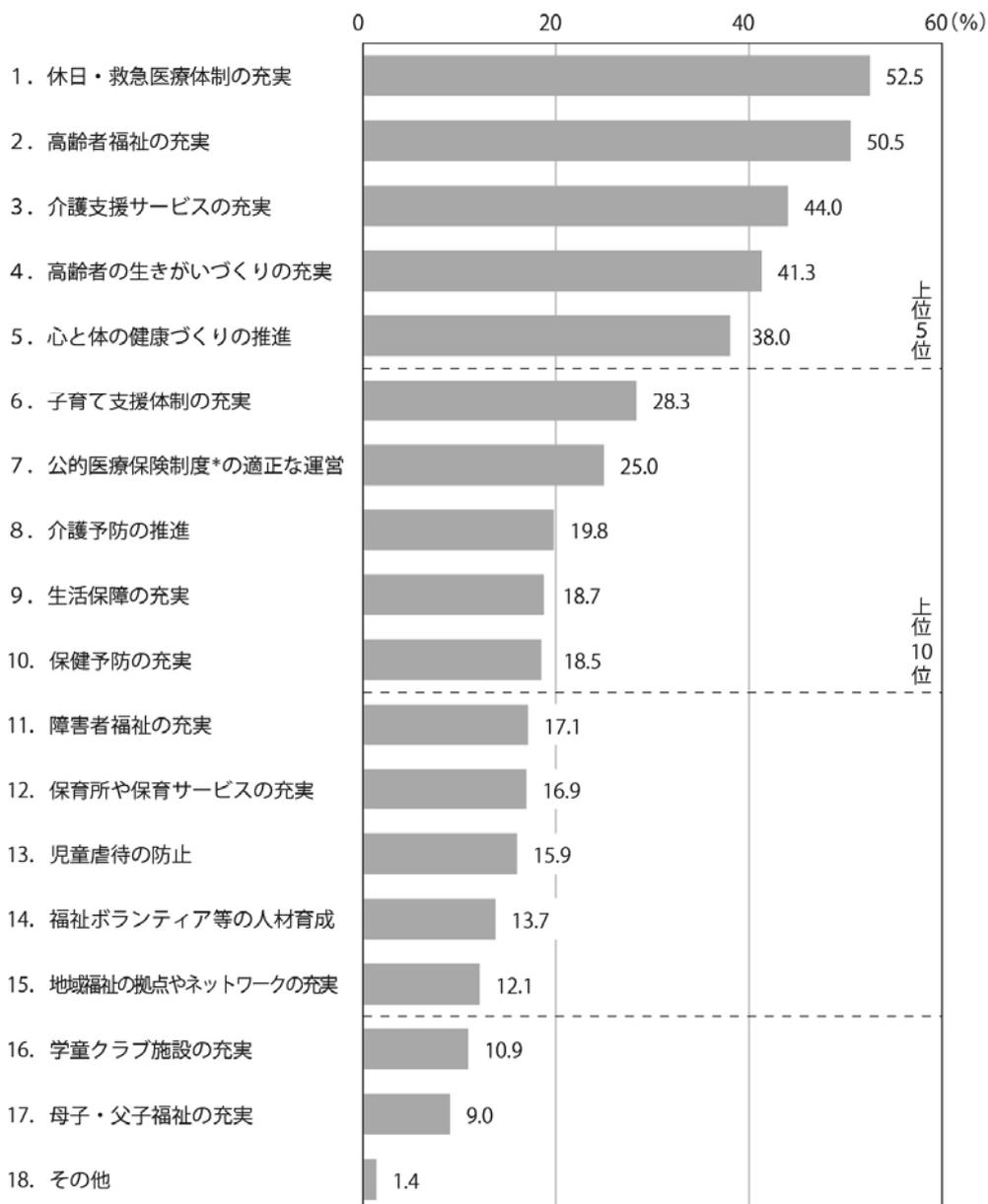
※棒グラフの模様は、前回の順位との増減
 ■ 前回より上昇 □ 前回より下降
 ■ 変化無し ▨ 今回、新たに追加した項目

5) 保健・福祉施策における優先事項

「休日・救急医療体制」が最も多くなっています。

また、「高齢者福祉」や、「介護支援サービス」、「高齢者の生きがいがづくり」、「心と体の健康づくり」なども上位を占めています。

これらのことから、医療体制の充実，高齢者福祉・介護支援サービスの充実とともに、医療・介護に頼らない元気な高齢者を増やすため、生涯にわたって健康に暮らせる環境の整備が課題になると考えられます。

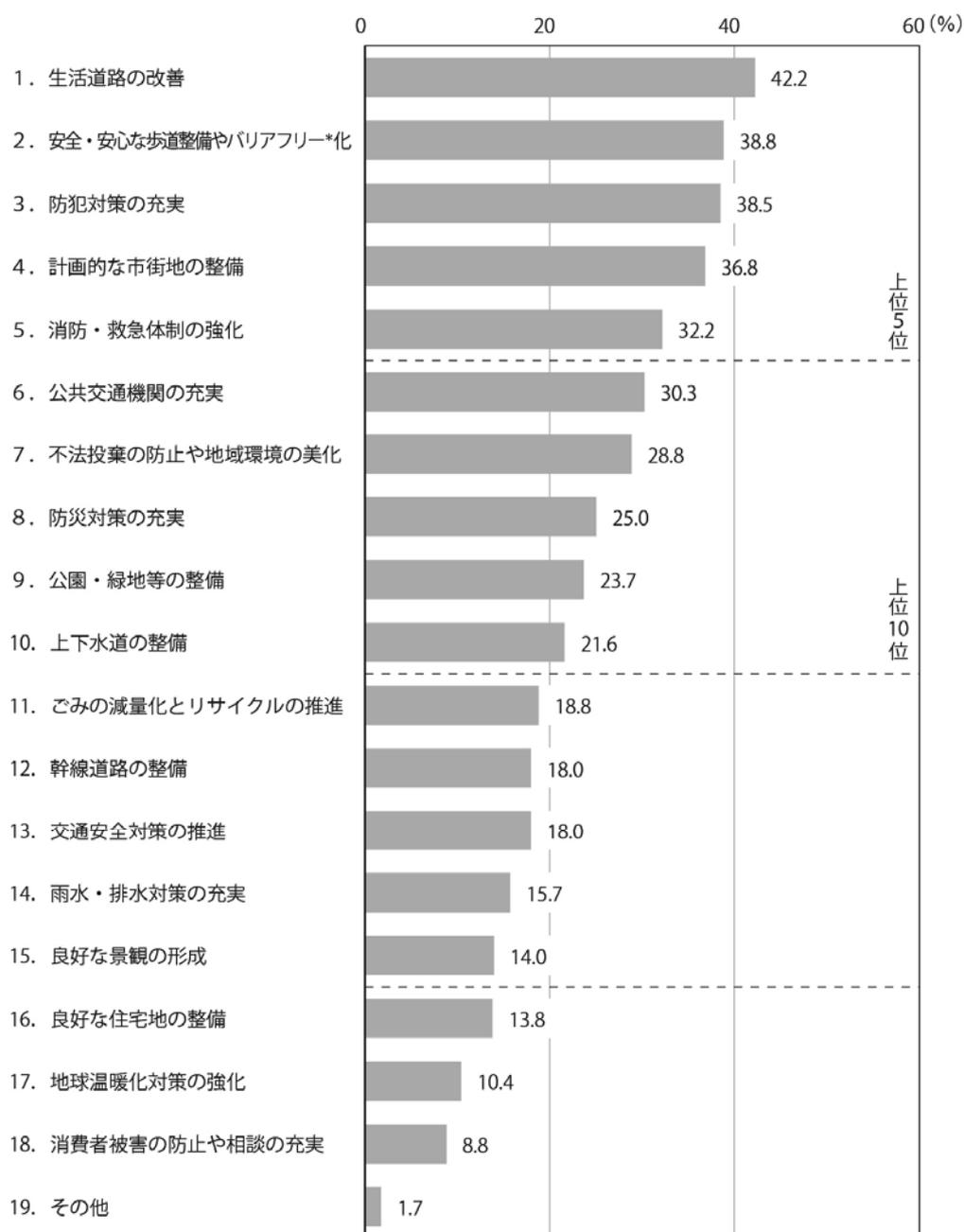


6) 都市・環境施策における優先事項

「生活道路の改善」や「安全・安心な歩道整備やバリアフリー*化」などが多く挙げられており、生活に身近な道路や歩行者に優しい道路の整備が課題となっています。

また、計画的な市街地の整備も多く挙げられており、引き続き、都市計画マスタープランや土地区画整理事業*等による市街地の整備を推進していくことが必要だと考えられます。

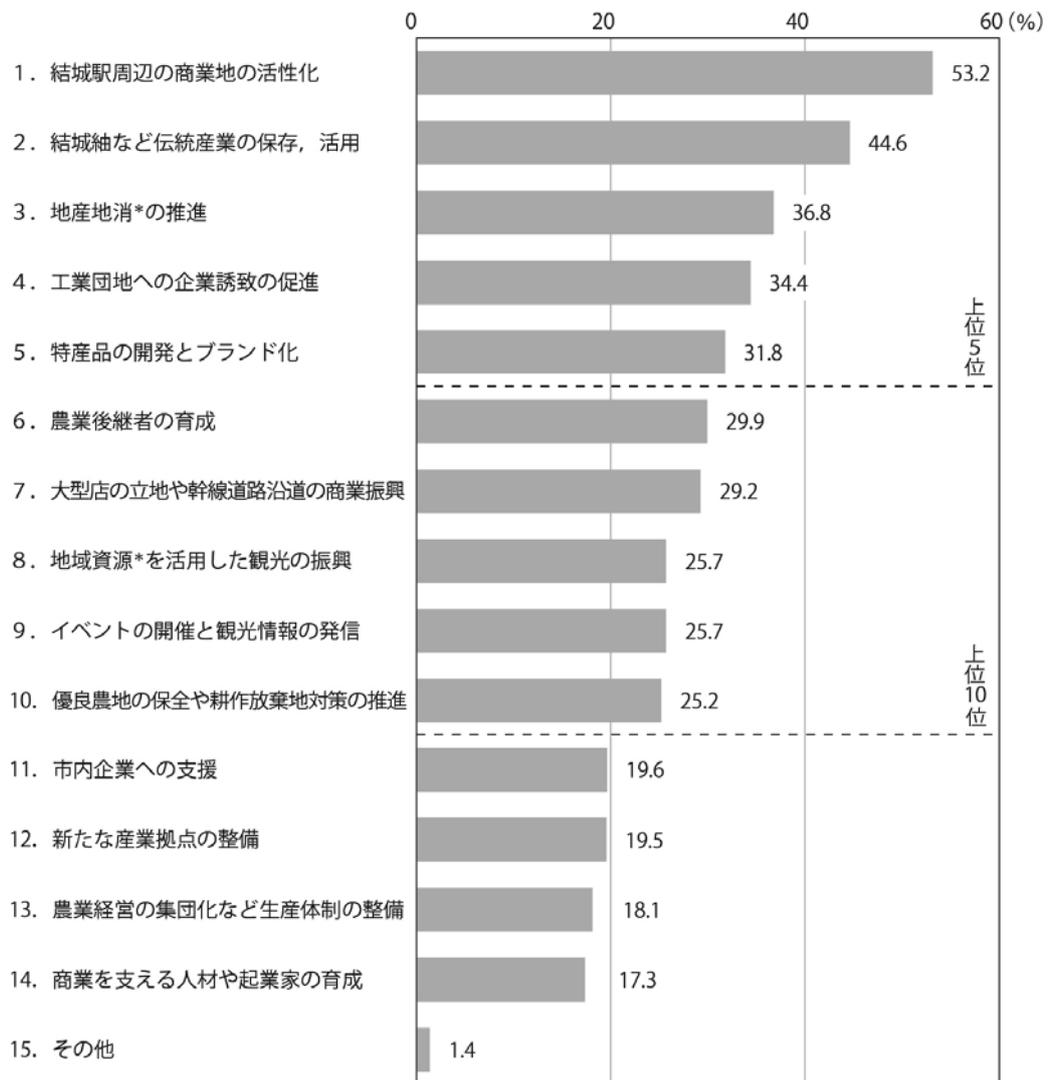
加えて、「防犯対策の充実」、「消防・救急体制の強化」も高くなっており、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりを推進することが求められています。



7) 産業振興施策についての優先事項

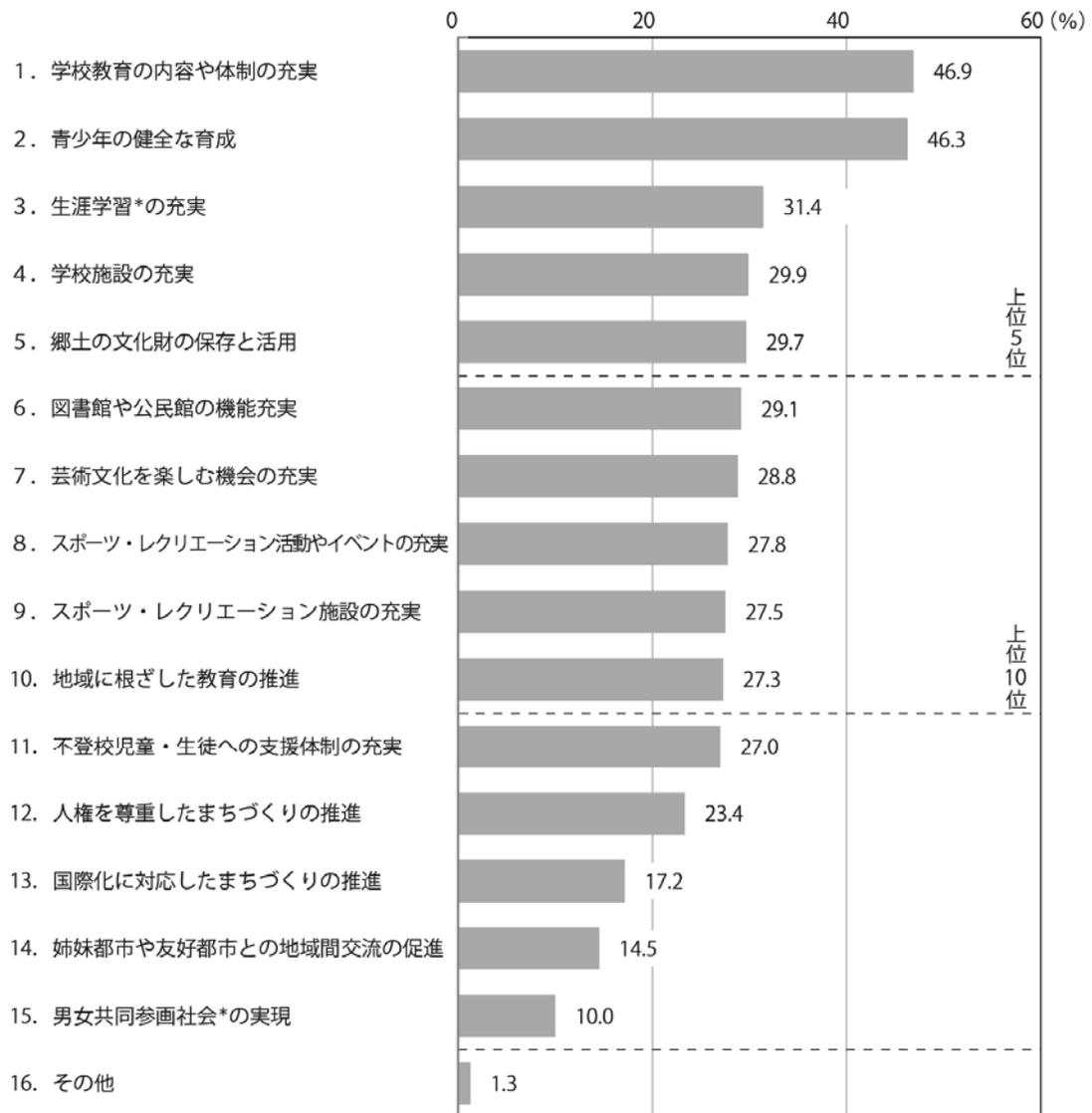
「結城駅周辺の商業地の活性化」が特に多く、中心市街地の活性化に対する関心の高さがうかがえます。

また、「結城紬など伝統産業の保存、活用」も多くなっており、結城紬がユネスコ無形文化遺産*に登録されたことで、伝統産業への市民の期待が高まっていると考えられます。



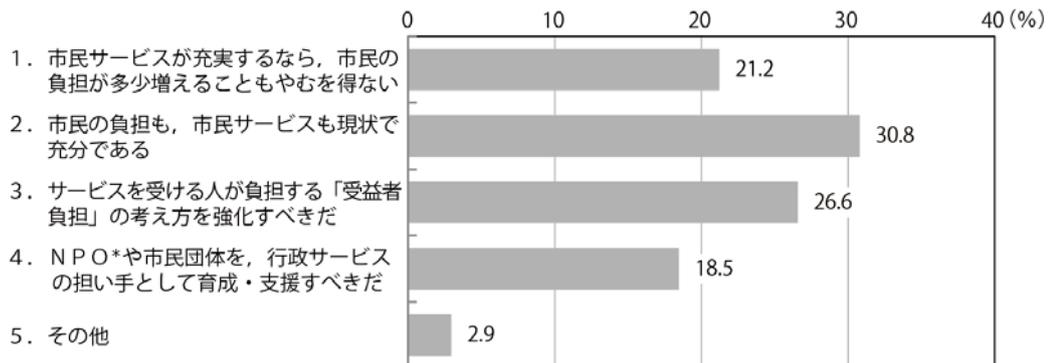
8) 教育・文化施策における優先事項

「学校教育の内容や体制の充実」、「青少年の健全な育成」が共に多く、教育・文化施策の中でも、子どもに関する施策を充実させていくことが課題になっていると考えられます。



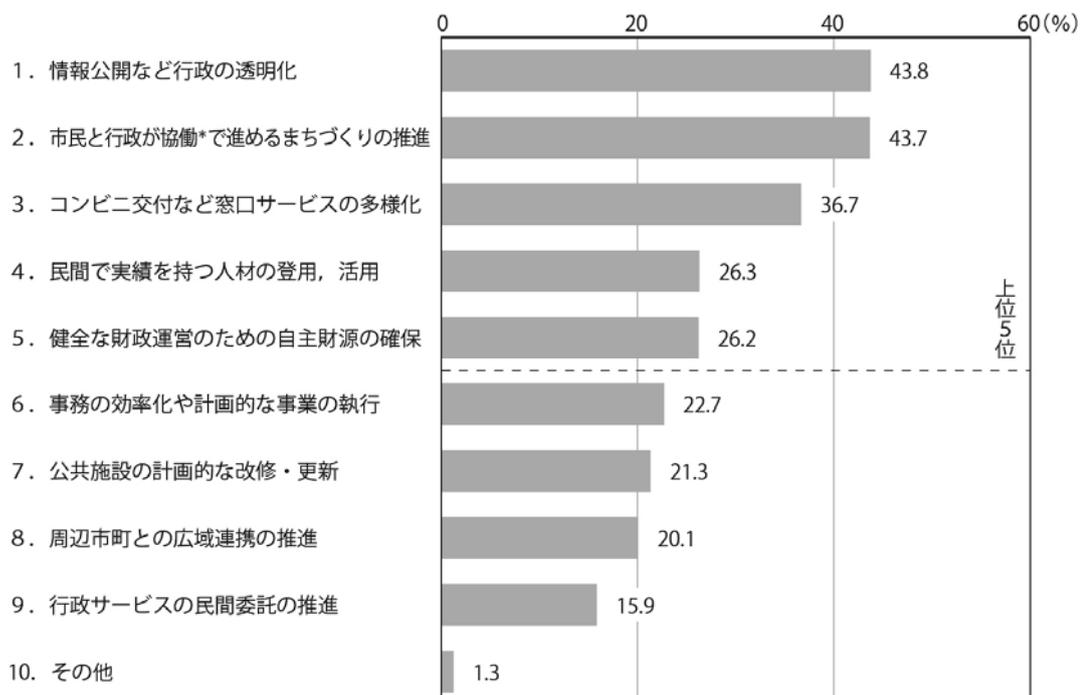
9) 行政サービスの水準と負担について

「市民の負担も，市民サービスも現状で充分である」と「サービスを受ける人が負担する「受益者負担」の考え方を強化すべきだ」が共に多く，現状の行政サービスに一定の評価をしつつも，受益者負担をより強化していくことが課題になっていると考えられます。



10) 行財政運営に望むこと

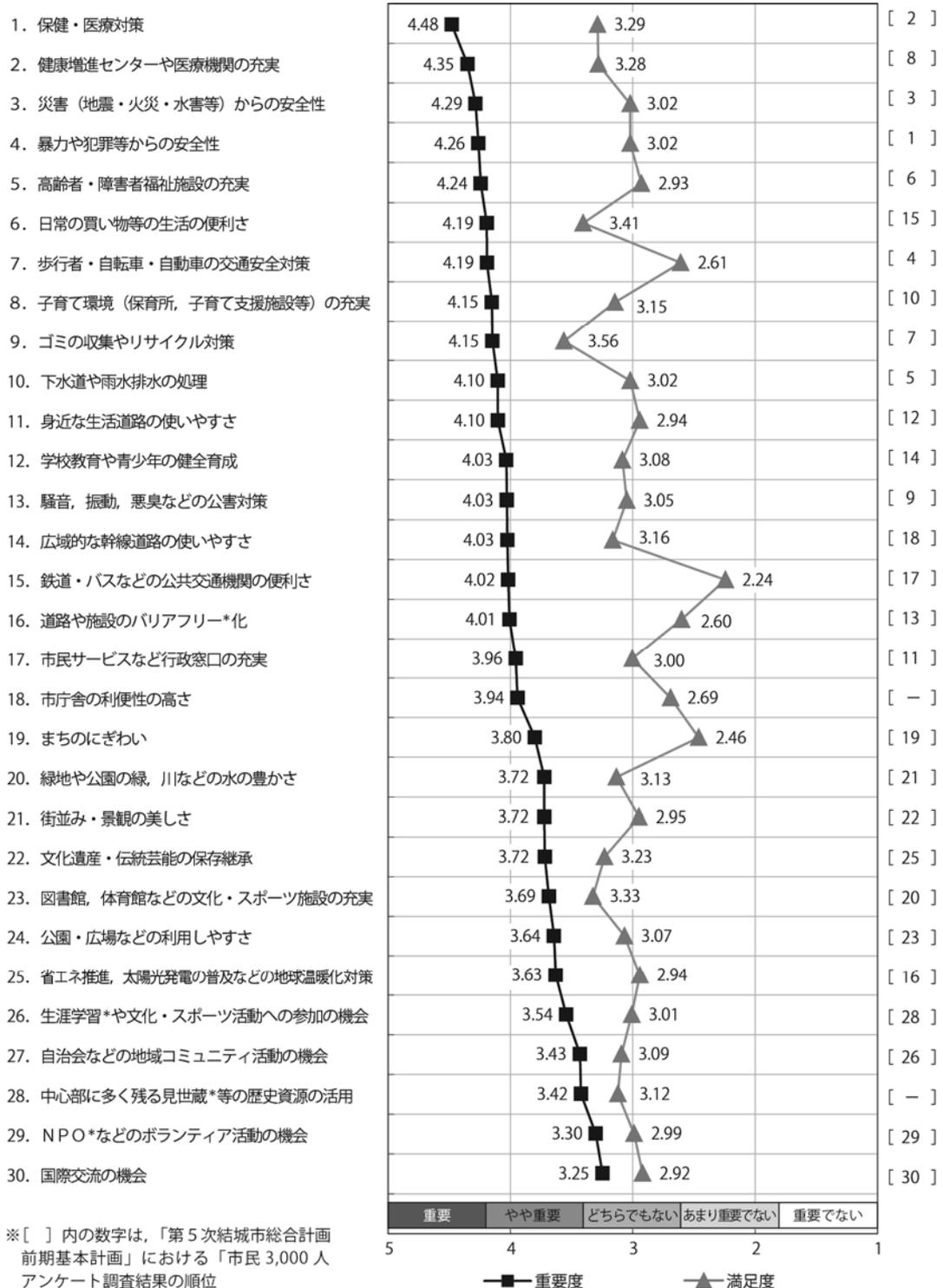
「情報公開など行政の透明化」と「市民と行政が協働*で進めるまちづくりの推進」が共に多く，市民と行政の双方向の関係を強化させていくことが課題になっていると考えられます。



11) 結城市のまちづくりの満足度と重要度

重要度では、「保健・医療・健康増進」や、「防災・防犯」、「高齢者・障害者福祉」、「買い物・交通環境」、「子育て環境」などが高くなっています。また、前回と比べて「医療・健康増進」や「買い物利便性」は順位が上がっており、より重要性が高まっています。

「公共交通機関の利便さ」、「まちのにぎわい」、「バリアフリー*化」、「交通安全対策」などは、重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっており、特に課題になっていると考えられます。

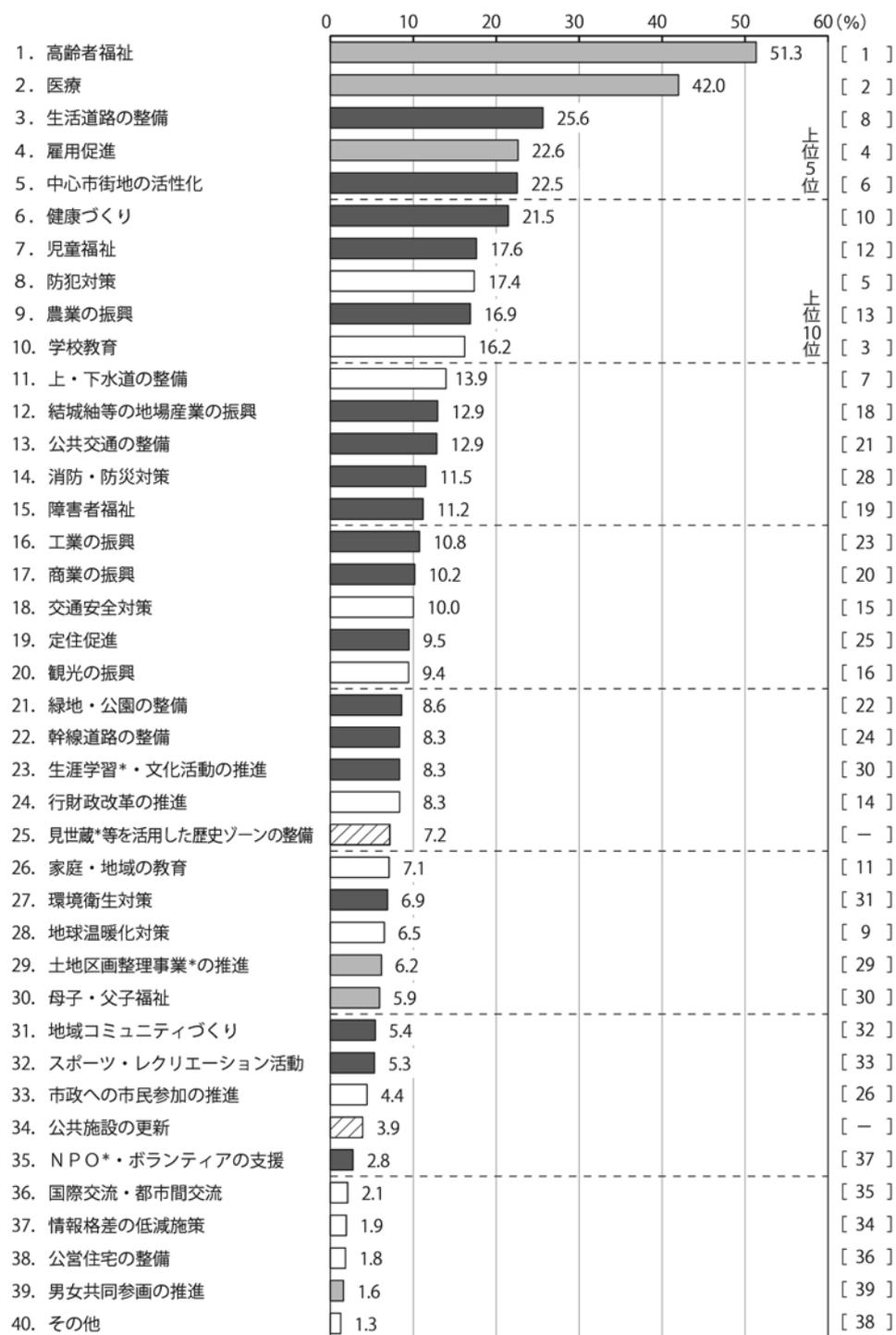


※[]内の数字は、「第5次結城市総合計画前期基本計画」における「市民3,000人アンケート調査結果の順位」

12) 今後5年間に重点を置いたほうがよいと思う施策

「高齢者福祉」や「医療」が前回と同様に特に多く、「雇用促進」や「中心市街地の活性化」も引き続き上位にあることから、今後も重要な課題になると考えられます。

また、「生活道路の整備」や「健康づくり」、「児童福祉」、「農業の振興」、「結城紬等の地場産業の振興」などが前回よりも順位を上げており、市民の期待や関心が高まっていると考えられます。



※[] 内の数字は、「第5次結城市総合計画 前期基本計画」における「市民3,000人 アンケート調査結果の順位

※棒グラフの様子は、前回の順位との増減

前回より上昇
 前回より下降
 変化無し
 今回、新たに追加した項目

調査結果まとめ（年齢別のクロス集計より）

結城市を「**住みやすいまち**」と考える人が多く、**定住意向が高く**なっています。

『若年層』の住み続けたい理由として、「買い物などの生活に便利だから」は少なくなっており、転居したい理由として、「将来発展の可能性」や、「通勤・通学」、「希望する仕事」の不足感を持っています。

これらのことから、**将来発展の可能性や、通勤・通学・買い物等生活環境の利便性、結城市内での雇用**に課題があると考えられます。

保健・福祉では、『若年層』の回答で「子育て支援」や「保育サービス」が多くなっており、将来像でも「子育てがしやすいまち」が多くなっている一方、結城市の長所では「子育て環境が充実していること」が下位になっており、**子育てに関する施策を充実していくこと**が課題となります。

加えて、『高齢層』の回答で、「医療」、「福祉」、「介護」、「生きがいづくり」が多く、将来像でも「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」が多く挙げられていることから、**医療・福祉に関する施策を充実していくこと**が課題となります。

都市・環境では、身近な生活道路の改善や歩行者の安全性の確保などが、全般的に多く、**身近な生活環境における安全性や利便性**への関心が高くなっています。

産業振興では、「既存の商業地の活性化」、「伝統産業の保存・活用」、「地産地消*の推進」、「工業団地への企業誘致」、「特産品の開発とブランド化」など、**既存の地域資源*を保全・活用**したいと考える人が多くなっています。また、結城市の長所では、「伝統産業があること」が多く、将来像で「歴史や伝統をいかした風格あるまち」の期待が高くなっています。

教育・文化では、『若・中年層』で「学校教育」や「学校施設の充実」などが多く、『高齢層』では「青少年の健全な育成」などが多くなっており、**学校・地域・家庭における子どもの教育環境づくり**が課題となっています。

自治・行財政運営では、「情報公開など行政の透明化」や、「市民と行政が協働*で進めるまちづくりの推進」、「窓口サービスの多様化」を望む人が多くなっていることから、**市民ニーズに対応した情報提供の充実や、協働*のまちづくり**が課題となっています。

今後のまちづくりについては、**歴史や伝統文化をいかしつつ、道路・交通の利便性、医療・福祉体制、子育て・教育環境、雇用環境等に関する施策に重点をおくことが重要**と考える人が多くなっています。

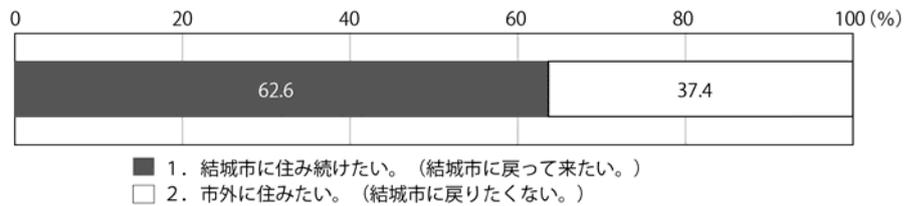
結城のまちづくりに関する新成人アンケート調査結果

調査概要

調査期間：平成27年1月10日(土)
 調査対象：成人式典に出席した新成人
 調査方法：受付での配布・回収
 回収結果：配布数426票 / 回収数191票(回収率44.8%)

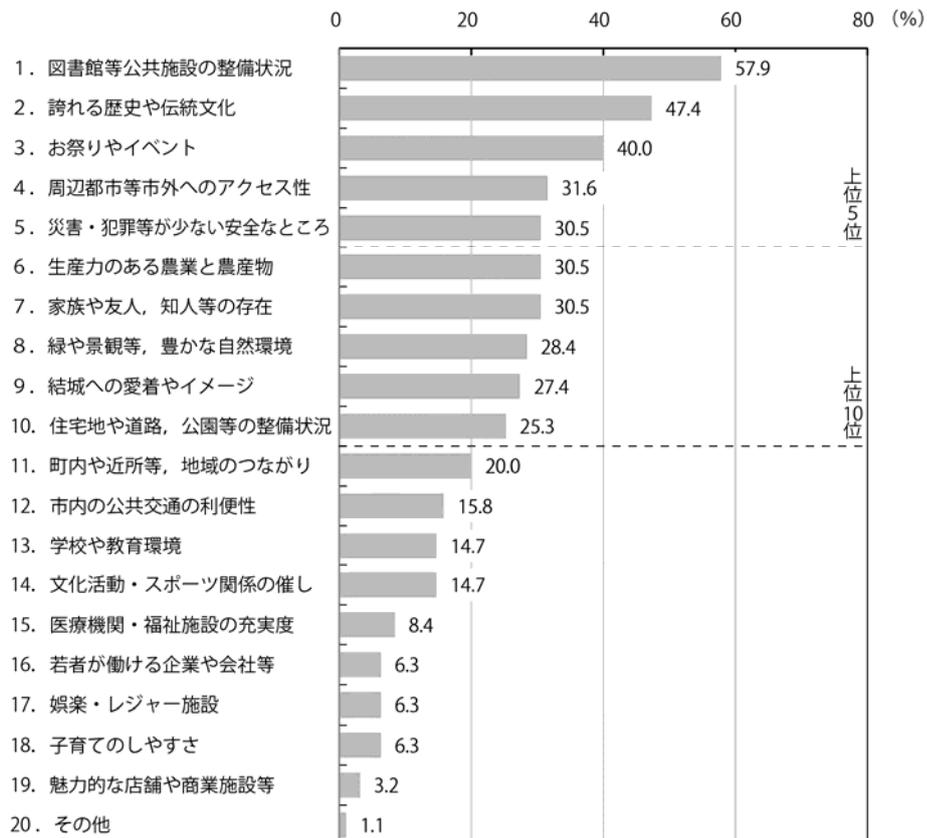
1) 結城市への居留意向

約3分の2は居留意向を示しており、居留意向が高くなっています。



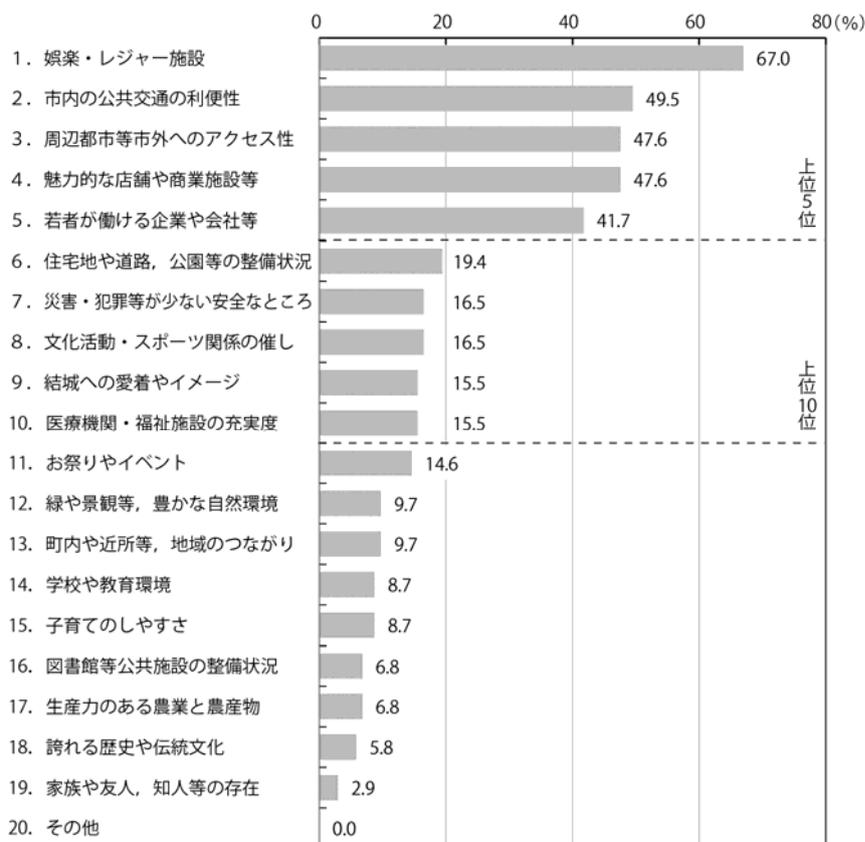
2) 結城市の良いところ

「図書館等公共施設の整備状況」、「誇れる歴史や伝統文化」、「お祭りやイベント」が多く挙げられており、新成人にも、結城市の歴史や伝統文化は誇れるものだと考えられています。



3) 結城市の不足しているところ

「娯楽・レジャー施設」が最も多く、次いで、「市内の公共交通の利便性」、「周辺都市等市外へのアクセス性」、「魅力的な店舗や商業施設等」、「若者が働ける企業や会社等」などが多く挙げられており、若い人の生活に必要な施設や交通利便性が不足していると考えられます。また、「子育てのしやすさ」は良いところ、悪いところともに少なく、新成人はまだ子育てへの関心が低いことがわかります。



調査結果まとめ

新成人も、概ね結城市への居住意向が強くなっています。

良いと思うところを見ると、若い人にも、歴史や伝統文化、お祭り等が結城市の魅力として捉えられていると考えられます。

不足していると思うところは、行動範囲が広い新成人らしく、交通アクセスや買い物、レジャー関連が多いとともに、地元への居住意向があるため就職先を心配していることが多くなっています。

このことから、若者の市内への定住を考えた場合、歴史や伝統文化、お祭り等をいかしつつ、都心等への通勤・通学といった選択肢を広げられるような交通アクセスの充実や地元就職ができる企業誘致の検討が考えられます。

本市は、「結城紬」や「見世蔵*」など、様々な地域資源*を有しており、これらを活用した、特色あるまちづくりを進めていくことが大切です。

ここでは、いかすべき「結城市の宝」として、歴史・文化、伝統工芸・伝統産業、イベント・祭り、自然環境、交通、都市基盤、産業の7つの視点から整理しました。

■ 結城市の宝



1) 歴史・文化

本市の旧市街地には、主に明治時代初期から大正時代に建てられた見世蔵*など、歴史的な建築物や古い街並みが残っています。また、市内には、山川不動尊や結城廃寺跡、水野忠邦の墓など、数多くの神社、寺院、史跡などが存在しています。



見世蔵*



結城蔵美術館



山川不動尊



東持寺(うめ寺)



城跡歴史公園



結城廃寺跡



城の内館跡



水野忠邦の墓

2) 伝統工芸・伝統産業

平成22年11月にユネスコ無形文化遺産*登録された「結城紬」をはじめ、桐たんす、桐下駄、まゆ工芸品、酒造、すだれ麩、味噌など、数多くの伝統工芸・伝統産業を有しています。



結城紬の地機織り



結城紬



桐たんす



桐下駄

3) イベント・祭り

さくら祭り，祭りゆうき，物産まつりなど，地域の伝統・文化や産業，自然をいかした特色あるイベント・祭りが開催され，市外からも数多くの観光客が訪れており，市民の暮らしに活気を与え，まちににぎわいをもたらしています。



さくら祭り



結城盆踊り大会



祭りゆうき



物産まつり

4) 自然環境

鬼怒川や田川，西仁連川等の潤いのある河川，筑波山の眺望や田園風景などの雄大な自然景観，西町緑道や水辺公園，あやめ園等の緑豊かな公園・緑地など，美しく魅力的な自然環境に囲まれています。



鬼怒川



筑波山



水辺公園



山川あやめ園

5) 交 通

J R水戸線は、本市と周辺都市や東京を結ぶ市民の重要な足となっており、特に、結城駅は、市の玄関口となっています。また、新4号国道や国道50号などの幹線道路が通り、交通利便性は高くなっています。



J R 結城駅



新4号国道



国道50号



鬼怒川大橋

6) 都市基盤

市民情報センター，市民文化センターアクロス，鹿窪運動公園等の文化・スポーツ施設や，学校施設，医療・福祉施設など，様々な公共施設が立地しています。また，結城駅の周辺では，土地区画整理事業*等による良好な住宅地が形成されています。



市民情報センター



市民文化センターアクロス



鹿窪運動公園



住宅地

7) 産 業

自然環境や立地利便性をいかし，様々な農業生産が行われるとともに，結城第一工業団地等の工業団地が形成されています。また，結城駅周辺や幹線道路沿道には商業地が形成されるとともに，中心市街地には数多くの観光施設が存在しています。



農業生産



結城第一工業団地



幹線道路沿道



観光物産センター

本市を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきており、こうした社会潮流に的確に対応したまちづくりを進める必要があります。

ここでは、「社会潮流」として、次の8つの視点から整理しました。

■ 社会潮流の視点

社会潮流の8つの視点

- 1) 少子高齢化・人口減少社会の急速な進展
- 2) 安全・安心なまちづくりに対する意識の高まり
- 3) 地方分権*・地方創生*の推進・戦略的で個性的なまちづくり
- 4) 社会経済情勢の変化と経済活動の広域化・グローバル化*
- 5) 市民協働*のまちづくりの進展
- 6) 市民のライフスタイルや価値観の多様化
- 7) 情報化社会の進展による市民生活の変化
- 8) 持続可能な循環型地域社会*の構築

■ 1) 少子高齢化・人口減少社会の急速な進展

我が国においては、少子高齢化が急速に進行し、人口減少社会を迎えており、年金や健康保険、介護保険等の社会保障費の増大が問題であるとともに、ひとり暮らし高齢者を地域で見守るしくみづくりが必要とされています。

このような中、若い世代の定住を促進するとともに、高齢者がいきいきと暮らせる社会の実現が求められています。

このため、高齢者が知識や経験をいかして活躍できる社会を構築していくとともに、若い世代が安心して子どもを生み育てられる環境づくりや、誰もが安心して医療・介護を受けられる環境づくりに取り組んでいく必要があります。

■ 2) 安全・安心なまちづくりに対する意識の高まり

東日本大震災をはじめとする震災や、集中豪雨などの災害の影響により、防災対策の必要性や、市民の安全に対する意識が高まっています。

また、防犯対策を強化し、子どもや高齢者が巻き込まれる犯罪の増加を防止するなど、市民が安心して暮らせる生活の確保が求められています。

このため、災害に強いまちづくりを進めるとともに、地域が一体となった防災・防犯体制の構築や、顔の見えるコミュニティづくりを進めていく必要があります。

3) 地方分権*・地方創生*の推進・戦略的で個性的なまちづくり

国、県及び市の役割分担を明確にしながら、主体性及び自立性のある地方自治への転換を図るなど、地方分権*・地方創生*の推進が求められています。

また、地域の特性をいかした施策展開及び固有資源を活用するなど、他自治体との差別化を図る戦略的で個性的なまちづくりが求められています。

このため、組織的な政策形成能力の向上に努め、多様化・高度化する市民ニーズに対応したきめ細やかな行政サービスを行うとともに、成果を重視した行政運営を進める必要があります。

4) 社会経済情勢の変化と経済活動の広域化・グローバル化*

世界の金融・経済動向や少子高齢化による労働人口の減少とともに、我が国の社会経済情勢や雇用状況は大きく変化しています。

また、情報化社会の発達や交通網・物流システムの高度化などにより、経済活動の広域化やグローバル化*が進展しています。

このため、既存の産業を活性化するとともに、新たな地域産業の育成と雇用の創出を図り、広域化・グローバル化*に対応した人材の育成を進めていく必要があります。

5) 市民協働*のまちづくりの進展

近年、市民参加によるまちづくりへの関心や必要性が高まっており、多様化・高度化する市民ニーズに対応したきめ細かな行政サービスを実現するためには、行政による市民への積極的な情報提供や、市民の主体的なまちづくり活動への支援を進めていくことが求められています。

このため、自治会・NPO*法人・各種ボランティア団体等の自主的な活動への支援を行うことによって育成を図り、同時に市民と行政のそれぞれの役割を明確にし、協働*のまちづくりを推進していく必要があります。

6) 市民のライフスタイルや価値観の多様化

近年、社会経済状況の変化に伴い、市民のライフスタイルや価値観の多様化が進み、「物の豊かさ」よりも、「生活の質」や「心の豊かさ」が求められています。

そのような中、健康増進、スポーツ・レクリエーション、文化活動など、余暇を利用した身近な活動への関心が高まっています。

一方で、世帯の核家族化や単身世帯の増加により、地域の間人間関係が希薄化している傾向にあります。

このため、地域活動を支援しコミュニティの再構築を図り、ともに生き、ともに学び、ともに支えあう社会を形成していく必要があります。

7) 情報化社会の進展による市民生活の変化

情報通信技術の急速な発達により、スマートフォンやタブレットなどの情報端末が飛躍的に普及し、市民を取り巻く生活環境は大きく変化しました。

また、ソーシャルネットワークサービス*など、情報通信によるネットワークは、コミュニケーションツールとして定着しています。

一方で、情報端末を使用できない市民も存在することを認識する必要があります。

このため、情報通信を活用した行政サービスの充実を進めるとともに、様々な情報伝達方法を確保しながら、誰もが必要なときに必要な情報やサービスを利用できる高度情報社会（ユビキタスネットワーク*）を形成していく必要があります。

8) 持続可能な循環型地域社会*の構築

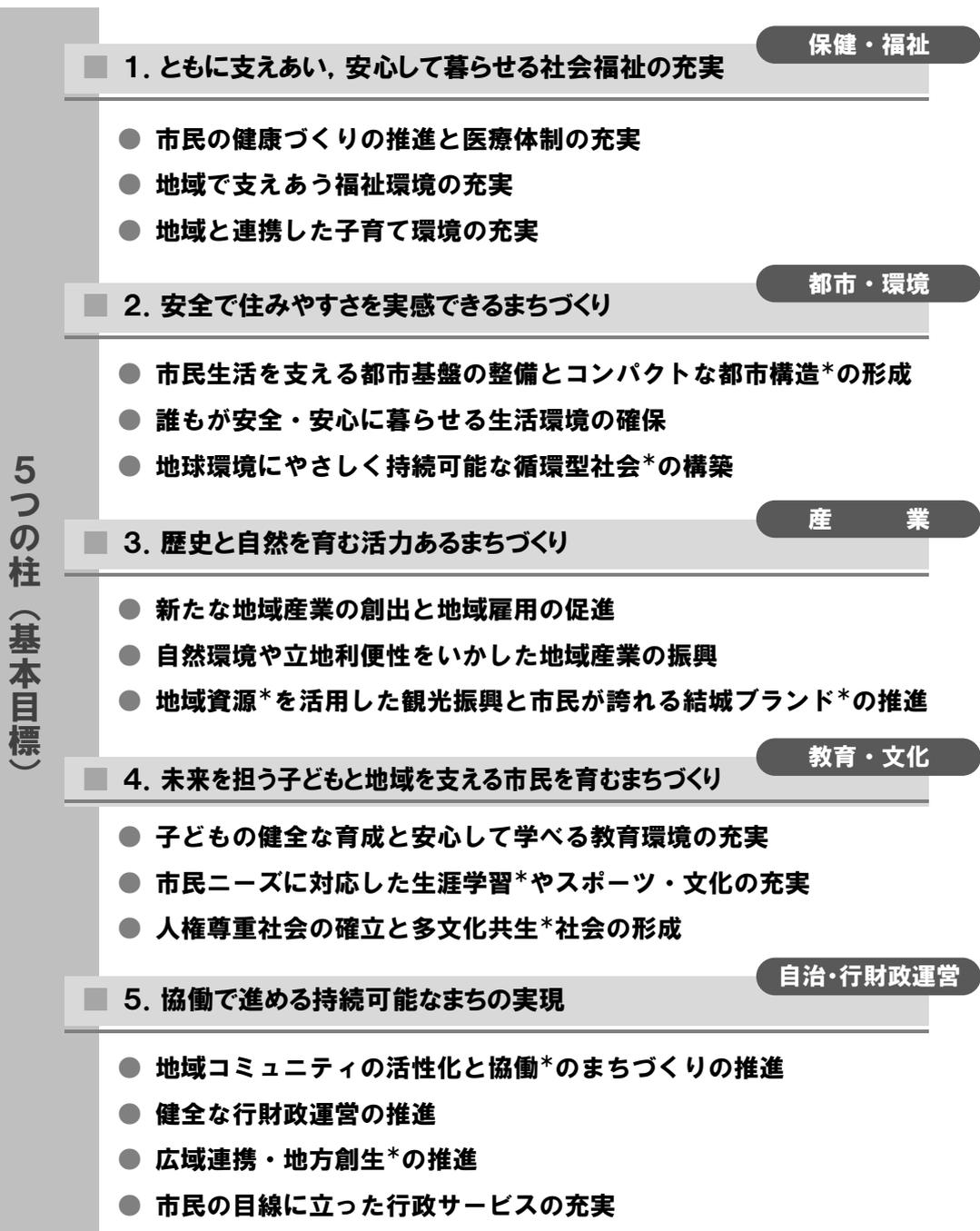
地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題への対策、河川や平地林等の身近な自然環境の保全及び地域の美化活動など、様々な環境問題を解決するため、市民一人ひとりが積極的に環境保全・共生に取り組んでいくことが求められています。

このため、環境負荷軽減のための技術革新やライフスタイルの変革に加え、自然環境や農村環境の保全など、市民、企業、行政がそれぞれの役割を果たしながら、環境にやさしく持続可能な循環型社会*を構築していく必要があります。

計画の策定にあたっては、結城市を取り巻く社会潮流や市民意識など、近年の動向や市民ニーズ等に即した計画課題を整理・分析することが大切です。

この計画課題については、策定市民会議（資料編 P. 148）や、職員で構成されたワーキングチームの議論等を踏まえ、総合計画の5つの柱（基本目標）毎に、以下のように整理されました。

■ 計画課題の体系



1. ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実

● 市民の健康づくりの推進と医療体制の充実

市民の健康に対する意識を高めつつ、市民の健康増進や、医療体制の強化に取り組むとともに、地域住民がともに支え合う仕組みを充実させるなど、住み慣れた家庭や愛着がある地域で、誰もが健康でいきいきと暮らすことができる環境を整備することが必要です。

● 地域で支えあう福祉環境の充実

高齢者・障害者（児）福祉サービス、母子・父子福祉サービス、及び低所得者支援施策の充実や、高齢者の生きがい・健康づくりの推進とともに、地域全体で高齢者・障害者（児）を支える仕組みを充実させるなど、誰もが安心して暮らせる環境を整備することが必要です。

● 地域と連携した子育て環境の充実

少子化対策の一環として、若い世代の子育てへの不安を取り除くため、安心して子どもを生み、育てられる環境づくりや子育て支援など、地域と連携した子育て支援の仕組みを構築していくことが必要です。

2. 安全で住みやすさを実感できるまちづくり

● 市民生活を支える都市基盤の整備とコンパクトな都市構造*の形成

市民の憩いの場となる公園や、地域の風土や文化をいかした落ち着いた景観、ゆとりのある良好な住環境、交通弱者に配慮した快適で利便性の高い道路・公共交通など、市民生活を支える質の高い都市基盤を整備するとともに、都市と農村のバランスのとれたコンパクトな都市構造*の形成により、まちの魅力を高め、多様なライフスタイルに対応しながら、定住人口を確保していくことが必要です。

● 誰もが安全・安心に暮らせる生活環境の確保

災害や犯罪から市民生活を守るため、災害に強い生活基盤の整備や、地域が一体となった防災・防犯体制の充実、消防・救急体制の強化、健全な消費社会の実現など、誰もが安全・安心に暮らせる生活環境の確保が必要です。

● 地球環境にやさしく持続可能な循環型社会*の構築

地球環境にやさしいまちづくりの実現のため、市民一人ひとりが環境の大切さを十分に理解するとともに、地球温暖化対策の推進や、自然環境の保全や再生、地域の美化活動の推進、適正な排水処理の推進などにより、環境負荷が少なく、環境に配慮した、持続可能な循環型社会*を構築していくことが必要です。

3. 歴史と自然を育む活力あるまちづくり

● 新たな地域産業の創出と地域雇用の促進

社会経済情勢の変化や労働環境の変化、働き方の多様化などに対応しながら、企業経営・雇用の安定化や、結城の発展に寄与する新たな産業の創出、工業団地の拡大、地域産業を支える人材の育成などにより、若者のニーズに対応した地域雇用の確保や、若い世代が安心して働くことのできる環境の整備が必要です。

● 自然環境や立地利便性をいかした地域産業の振興

豊かな自然環境をいかしながら、農業経営基盤の強化や、農業の生産性向上、農業後継者・担い手の確保と育成、地産地消*の推進等を実現するため、農地基盤整備等の事業により、特色ある農業の振興と活性化を図る必要があります。

また、立地利便性をいかした新たな企業の工業団地への誘致、地域密着型の産業育成等による地域産業の活性化とともに、中心市街地の活性化などによる魅力と活気にあふれた商業の振興が必要です。

● 地域資源*を活用した観光振興と市民が誇れる結城ブランド*の推進

蔵造りの街並み等の豊かな地域資源*を活用した観光振興により、活気にあふれたにぎわいのあるまちづくりを推進するとともに、結城紬をはじめとする伝統産業の振興や、市民が誇れる伝統工芸の保存・継承、農商工が連携した特産品の開発により、魅力的で特色ある結城ブランド*の推進を図ることが必要です。

4. 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり

● 子どもの健全な育成と安心して学べる教育環境の充実

少子高齢化や国際化などの変化に対応した教育内容及び学校施設の充実や、小中一貫教育の推進、学区・学校の再編など、子どもたちが健やかに育ち、安心して学ぶことができる教育環境を整備することが必要です。

● 市民ニーズに対応した生涯学習*やスポーツ・文化の充実

市民のライフステージや多様なニーズに対応しながら、生涯学習*や地域教育の充実など、誰もが生涯を通じてともに学べる環境を整備するとともに、スポーツ・レクリエーションや文化・芸術活動及び施設の充実など、誰もが豊かな時間を過ごせる環境を整備することが必要です。

● 人権尊重社会の確立と多文化共生社会*の形成

人権意識の高揚により、差別がなく、自由・平等で市民の人権が尊重される社会を確立するとともに、男性と女性が互いに尊重し、責任を分かち合う男女共同参画社会*を推進することが必要です。

また、国際化・グローバル化*の進展に伴い、国や地域を越えて活躍できる人材の育成・確保や、国際交流・地域間交流の促進など、多文化が共生する社会を形成することが必要です。

5. 協働で進める持続可能なまちの実現

● 地域コミュニティの活性化と協働*のまちづくりの推進

市民が主体的にまちづくりに参加・参画できる環境の整備とともに、まちづくりの主体となる市民・企業・行政等が、それぞれの特性をいかし、責任や役割分担を明確にしながら、地域課題の解決を図っていくため、協働*のまちづくりを推進していくことが必要です。

また、自治会、NPO*、ボランティア等の市民団体の活動の充実による地域コミュニティの活性化を図ることが必要です。

● 健全な行財政運営の推進

社会経済情勢の変化や地方分権*型社会の進展に伴い、行財政改革による効率的で質の高い行財政運営を確立していくことが必要です。

● 広域連携・地方創生*の推進

日常生活圏の広域化に伴い、各都市が魅力や個性を発揮できる定住自立圏*等の広域的な連携の推進や、地方創生*の推進を図ることが必要です。

● 市民の目線に立った行政サービスの充実

市民の多様なニーズに対応しながら、市民の目線に立ったきめ細かな行政サービスの充実を進めるとともに、高度情報化の進展に伴い、情報セキュリティ対策を強化しつつ、情報通信技術を活用した情報公開の推進や、行政サービスの利便性向上を進めていくことが必要です。